

福祉施設等の職員を対象とした新型コロナウイルス感染症対応研修会

感染の疑いが発見された場合の対応

2020年7月21日

鳥取社会福祉専門学校

感染管理認定看護師

大畑 悦子

本日の内容

- ①感染の徴候の見分け方
- ②感染の疑いが見つかった場合の対応について
- ③感染者の隔離を行う方法

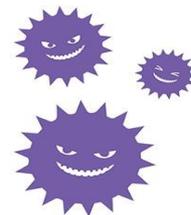
①感染の徴候の見分け方

- ・「いつもと違う」 顔色を意識する
日常のケアの中で健康状態を確認する
- ・毎日決まった時間(朝、夕)にバイタルサインを測定
発熱が最も重要
咳、呼吸困難、身体のたるさはないか



入所施設における感染予防対策の基本

施設内へウイルスを持ち込まないことが重要

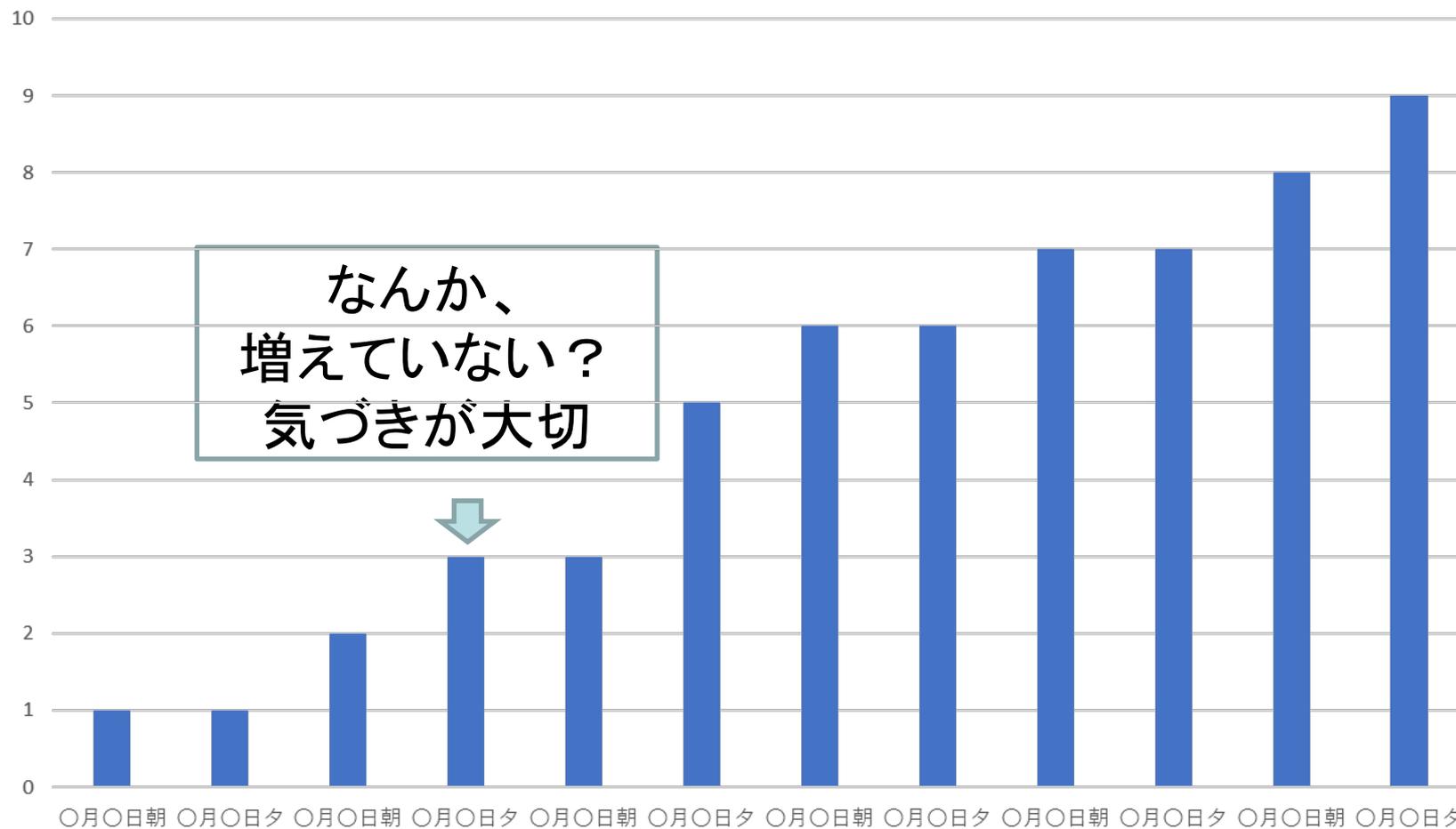


職員の自己管理(熱・咳の有無)

朝・夕に業務中の全職員の体温を測る

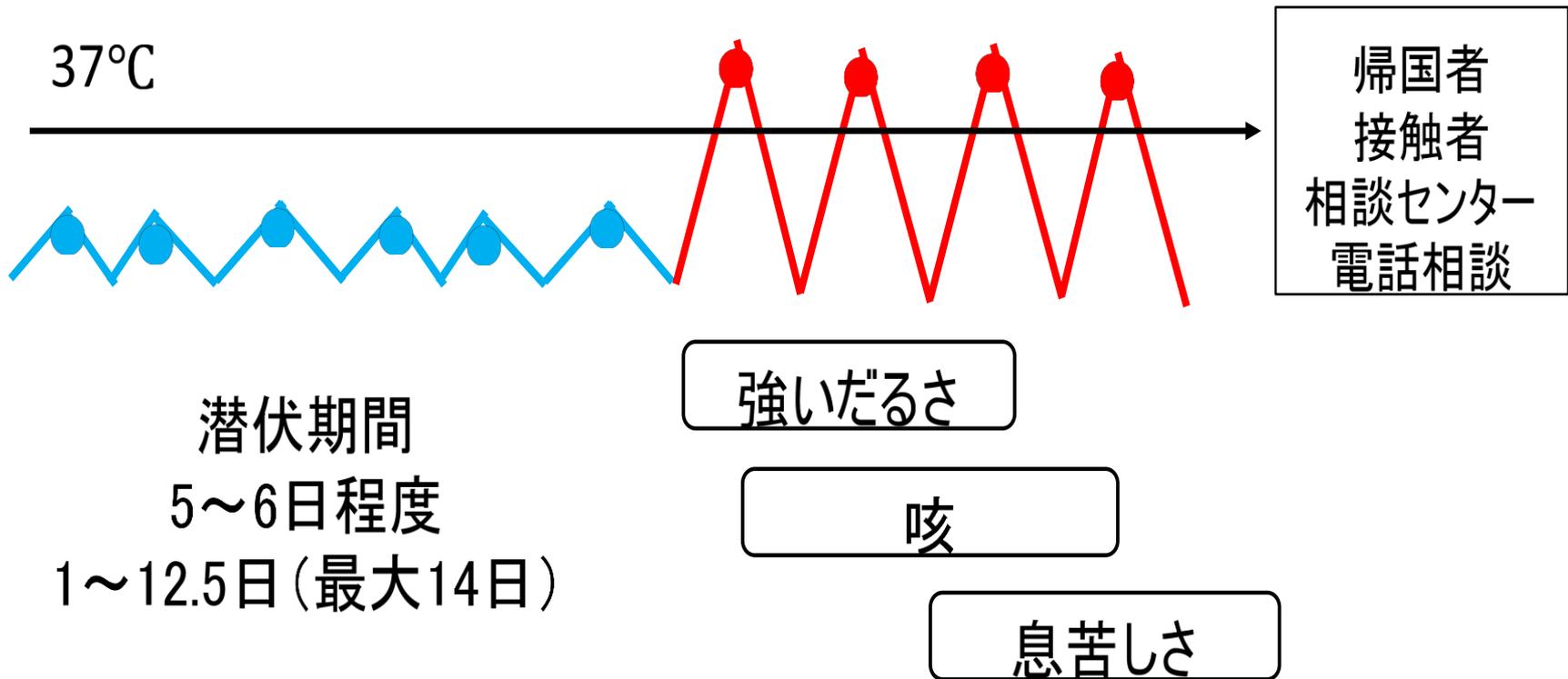


毎日、利用者、業務中の職員の体温をグラフ化する



新型コロナウイルスの経過

37.5°C ↗



ウイルスの感染経路

- ・ **飛沫感染**

感染した人の咳やくしゃみの飛沫から
ウイルスを吸い込む



pixta.jp - 950108

- ・ **接触感染**

感染した人が触れたドアノブ等から
ウイルスが手に付着し、その手で
鼻や口に触れる



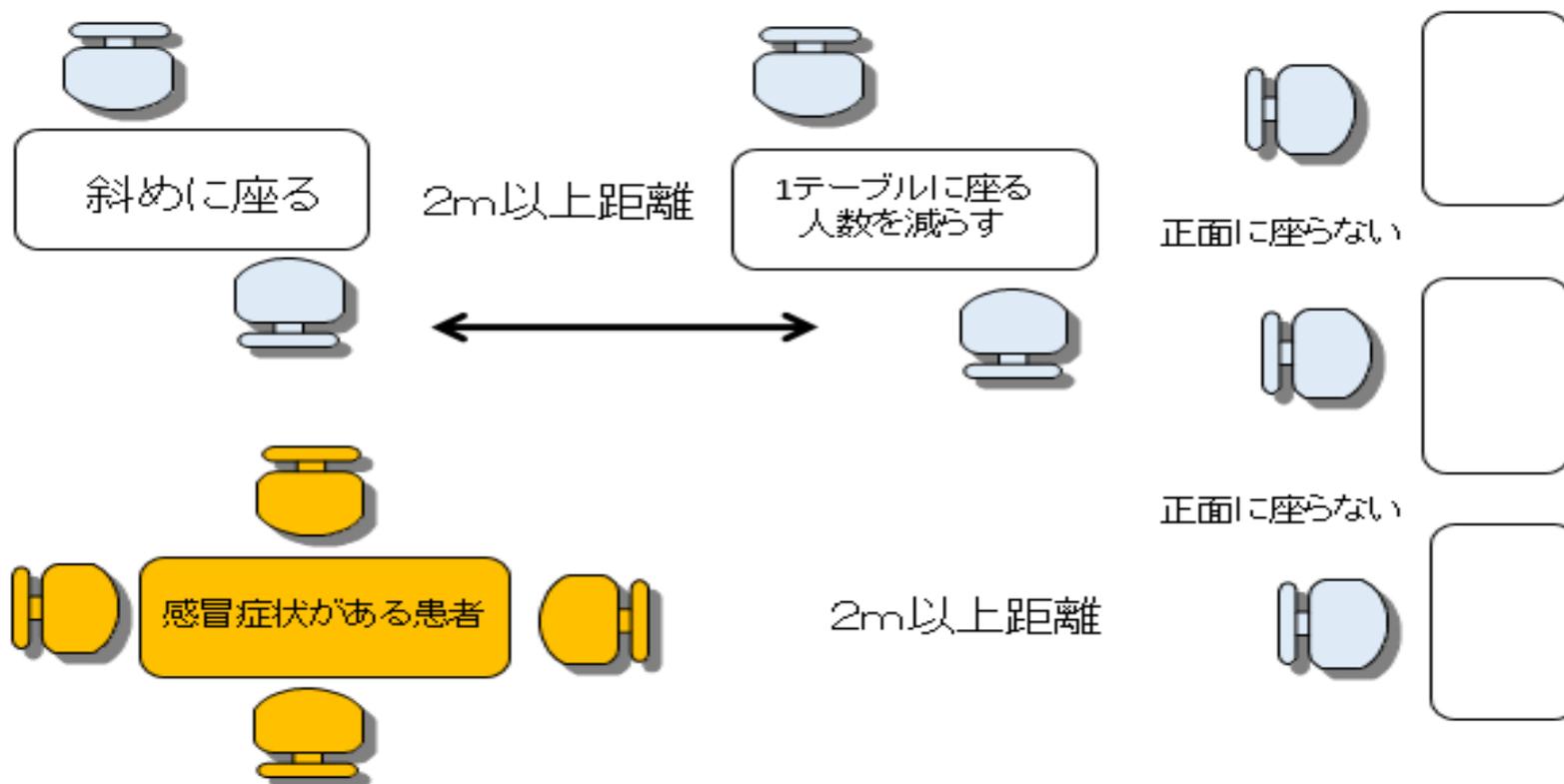
職員からの伝播予防

- 職員の休憩室や更衣室等の職員間の会話や食事に注意
 - 勤務中は常時マスク着用で予防
 - 食事時間をずらして、マスク無しの職員が複数休憩室にいるのを防ぐ
 - 換気をよくする



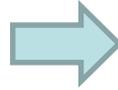
福祉・介護施設において、食事やレクリエーションなどの 感染予防対策

感染症流行時の食堂の工夫例

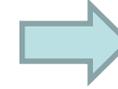


相談・受診の目安

- ・風邪症状
発熱が4日以上続いている
- ・強いたるさや息苦しさ



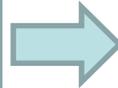
発熱・
帰国者・
接触者
相談センター
連絡



勧められた
医療機関を
受診

重症化しやすいしやすい人は
2日程度で相談

- ・高齢者
- ・妊婦
- ・基礎疾患や透析を受けている人
- ・免疫抑制剤や抗がん剤を使用している人



基礎疾患

糖尿病、心不全、呼吸器疾患（COPD等）

②感染の疑いが見つかった場合の対応について

症状あり(熱、強いだるさ、息苦しさ、咳など)



配置医師、かかりつけ医へ相談 疑似症と判断



部屋を個室へ

「発熱・帰国者・接触者相談センター」に電話相談



症状の経過、行動歴等の確認・判断

③感染者の隔離を行う方法

施設において、症状が継続している場合や医療機関受診後、診断結果が確定するまでは・・・

- ・利用者個室に移動
- ・飛沫感染予防策・接触感染予防策を行う
- ・可能な限り、担当職員を専属にする
- ・ケア時や定期的な換気



<多床室に疑い利用者が見つかった場合>

- ・同室者は濃厚接触の可能性
- ・同室のまま、14日間は健康観察を行う

<職員の対応>

- ・医療機関受診後、診断結果が確定するまでは・・・
自宅待機

- ・診断結果が陰性の場合

- ・14日自宅待機、健康観察
- ・職場復帰、保健所の指示に従う

- ・感染の疑いがある利用者に接触した場合

- ・保健所の指示に従う
- 14日自宅待機、健康観察

福祉・介護施設の感染対策における職員の役割



① 自分が感染しない



② 利用者を感染させない



③ 利用者間の感染を媒介しない

まとめ

- ・ 利用者のわずかな変化に気づく
- ・ 入所者にウイルスを移すのは主に職員であることを自覚し行動する
- ・ 毎日、発熱者をグラフ化し、感染疑いの入所者、職員を早期に発見することが重要
- ・ 感染の疑いが見つかった場合は、発熱・帰国者・接触者相談センターへ連絡・相談し指示を仰ぐ